

## 育苗までのさつまいもの病害対策について

さつまいも産地で、基腐病やつる割病による立枯症状や塊根腐敗などの被害が発生しています。

次年産での発生防止のためには、伝染源を少なくすることと健全苗の確保が大切です。次の取組を徹底しましょう。

多発ほ場では、健全苗を植え付けても発病する恐れがあるので、連作を避けましょう。



写真1 基腐病の多発ほ場 (本ぼ)



写真2 株元の黒変症状 (本ぼ)



写真3 育苗床で発生した基腐病の症状

(左：萎凋症状 中央：矢印部が黒変 右：伏せいもの腐敗)

### ▶ 次年産に向け、早急に行うべき対策

- ① 病原菌は残さとともに土壌中に残るため、収穫後は直ちに耕うんし、残さの分解を促進する。
- ② 種いもは発病の無いほ場からとる。
- ③ 育苗床は、11月中に必ず土壌消毒(クロルピクリン、ダゾメット粉粒剤)を行う(地温を15℃以上確保しないと効果が低い。また、必ずビニール等で土壌を被覆する)。
- ④ 種いも定植前には、腐敗や変色のあるいもは除外する。
- ⑤ 種いも定植前に、種いも消毒を行う(黒斑病登録：トップジンM水和剤の200～500倍液に、20～30分間種いも浸漬処理する)。